858-18
858
18

風爐先屏風寸法

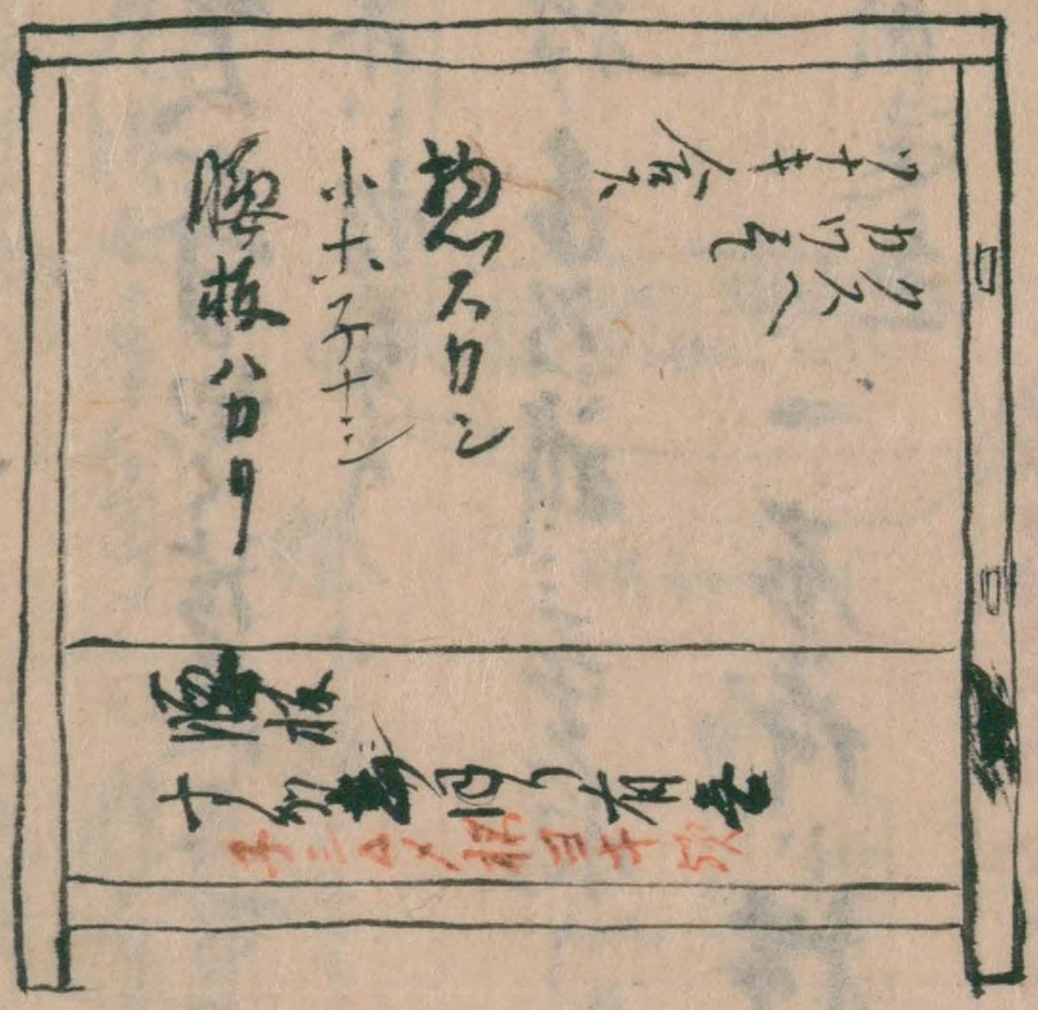
一 長ケ貳尺八寸五分 中の六分の縁 竹木ニても云

横貳尺幅そてとし

屏風表板ノ

也

裏板目張抜
カワニテツナキ合



△ 囲炉裏（イロリ）縁寸法

二ツ折ニテ 壹尺八寸四五分

折のり之・厚壹寸弐分

長弐寸弐分 厚三ノ四分

縁ノめん取り

○名ハ塗縁 ○正月以ハ木地縁

▲高臺寺蒔絵ト云菊キリ

紋奈良間ハ二分ニ縁有

国立国会図書館　タイトル『風炉先屏風寸法』　請求記号 858-18

ガラス使用

手水柄杓寸法之事

一 柄長サ壹尺七寸。如ク指渡三寸。長サ二寸五分
杓厚壹分 木ハ桐なり
柄杓手水鉢ニ置様之事

一 朝焼物鉢ハ 座ニ之 七角遠山

一 桶ハ 上ニ向なく

但 臺天ノ時分ハ手水ニ之行口ニ湯ヲ入持ノ上候
杓ノ底ニ置 但コイ茶ノ時ノ事

一 底柄ハ 横にして置

両時茶入本ノ時ハ先茶薬置ニ置
招席ナヒテナリ 手日ハ〇 手水ノ柄ノ内ニテ
ちうはんの物 杓ニ水を切ケ 水一寸ヘ入置

手水鉢座ニ置ヘキ
ひきやくの柄を手水鉢
かけなの辺ニあるへし

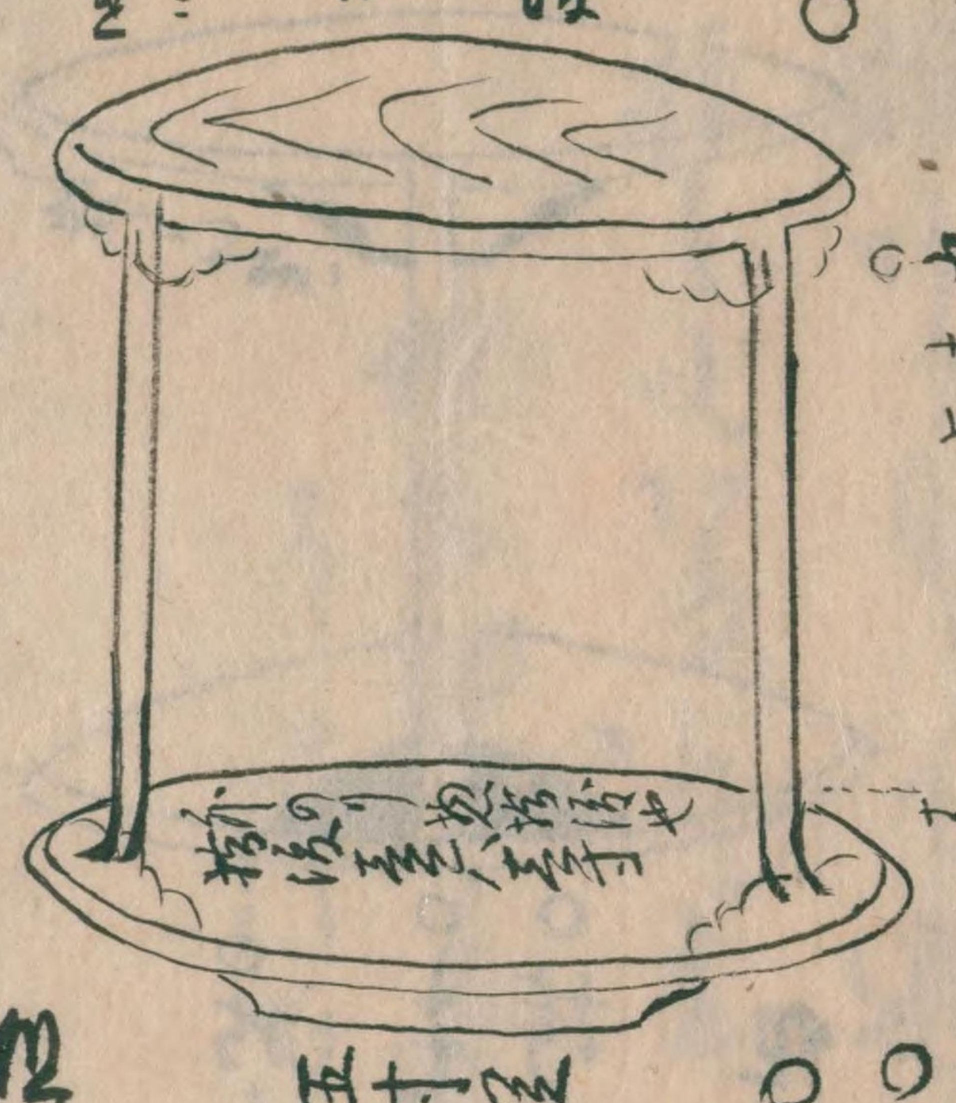
△丸卓寸法金尺

高サ二尺 見付前
〇 もゝ上ニテ七ト
〇 もゝ下ニテ 壹分半
指長サ五寸
足三ツ 割三所半
板下〇 壹寸五分内八分半

但足指逆寸法ニ記未ニアリ

板ニ足形りニ 右同

〇 丸指渡 壹尺四分
〇 板指渡ニ 壹

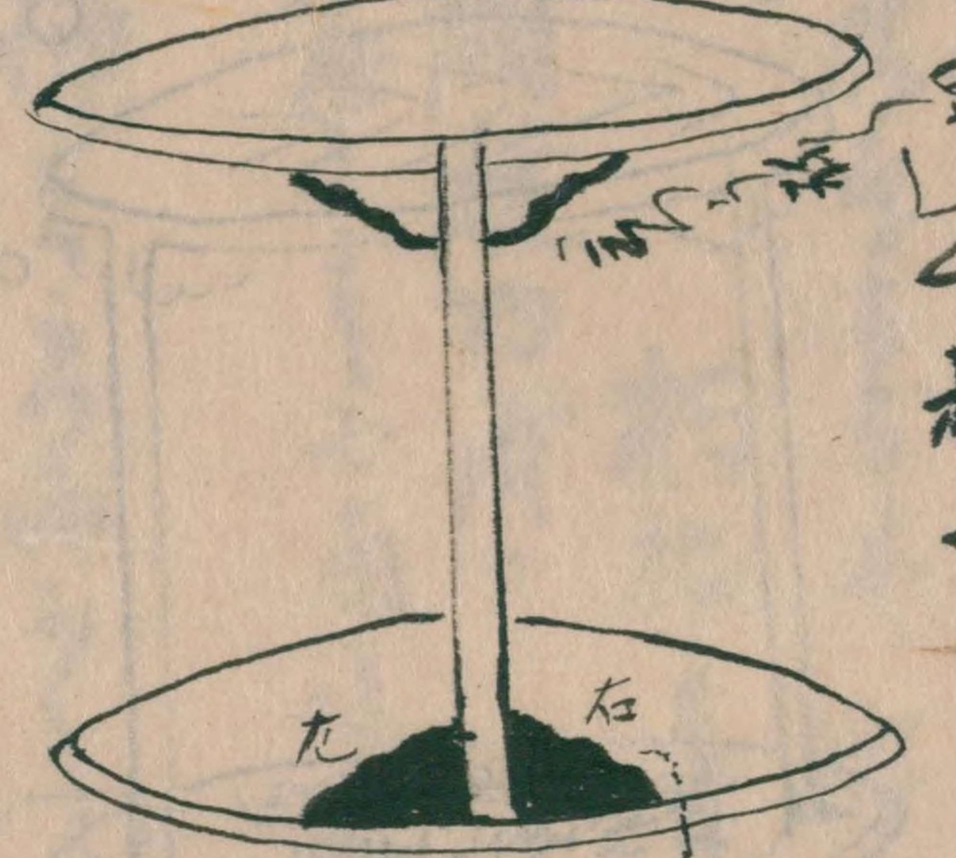


〇 太サ 見付 壹分半

但 丸指長壹尺壹寸
板ノ向ヘ
指渡〇 壹尺八分
傳

〇 板長サ壹尺三寸四分
〇 丸板厚 上丸厚 六分六厘
下丸厚 四分八厘径

丸卓之見事し圖　桑或居真塗　檜木
塗ハ一行木ニもよし右之積



○坊主より田し本
本　塗も寸法ニ入る　木地之ハ木地
○もしも柱本口より二寸内へ入る
○揚送り柱まん中おゐん
但し坊送り柱ハ右左寺谷口ニおゐん
一ニ下段
○天板ニも寸之入口
長サ五寸之　寸法有
○柱厚寸法之入口
○桐・檜・桑・欅　黒ぬり　木地ニも
松木地・

右丸卓之柱穴寸法ハ柱根より出して揚送りの先ゟ寸法ニ
右柱し小口より寸法ニ可用へし
但し細工ニて寸法ニて竹のせん等ニも
寸法用る事ニ寸る

風炉小板寸法

一 長サ壱尺四寸 小口壱尺壱寸 厚五分

長板寸法ニ同し

一 長サ弐尺四寸 幅壱尺四寸 厚壱寸五分

但 琉球台子風炉・土風炉ニ用ゆる

一 都テ寸法ニ流儀ニより違ひ有之 尤其用ゆる時ハ其流儀ニ随ひて可用也

但 右ハ流儀ニより違ひ寸法有り

一 雪洞（セツドウ）（炭を入ル時ハ火を覆ひ白）

風炉ニ用ゆる也 竹を以て骨を作り紙を張白

○ 風炉釜一通りニ用ゆる也

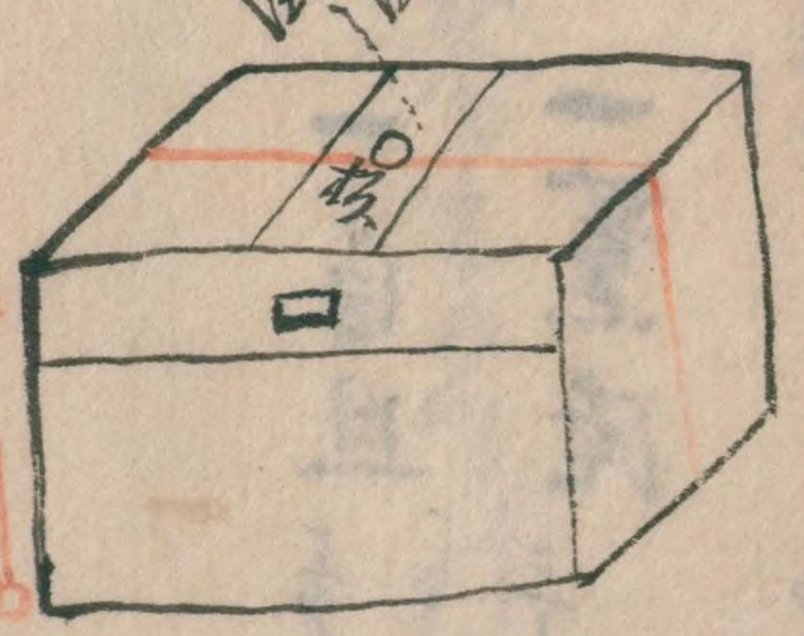
○ 雪洞助炭内寸法

一 助炭（ジヨタン）

竹ニ骨 紙ヲ張ル 白紙ニ張る

○ 炭ヲ助ル

長サ



組ノ香ノ法

黄熟香

一 沈香 四匁

一 丁子 弐匁

一 白檀 壱匁

一 甘松 壱匁

一 貝甲 壱匁五分

一 薫陸 三分

右五味粉にしねり合 但五味等分にも[illegible]

四季ノ香も右ニ同じ

一 梅花 蓮葉 菊花 松花

黄熟香流儀或ハ〇千歳とも云 又沈香白檀同也

長火箸(ハシ)寸法

一 長サ壱尺弐寸〇手本竹の皮ニ而巻之 皮長サ四寸五分〇頭先壱寸五分ニ而巻 [illegible]

炉火箸寸法

一 長サ四寸五分内四寸五分柄 [illegible]

是本ハ壱本

風炉火箸寸法

858
18

一長サ九寸以ヨまてすこ切 但装束之節迄
座敷ニ而ハ見斗ニ而宜しかるへし

国立国会図書館　タイトル『風炉先屏風寸法』　請求記号 858-18

ガラス使用